

正直に接する

2022. 2. 2

オリンピックにも出場したこともあるスポーツ選手が、学校向けの出張授業などで、子どもたちと接するとき心がけていることはありますかという質問に、次のように答えていた。

私もいろいろなセミナーを受けて学んできましたが、結局、学んだことというのは、その人が感じたことであって、全ての人に合うわけではありません。教科書や本に書いてあることをそのままやればいいというものではないと思います。

必要なのは、まず、「正直であること」ではないでしょうか。子どもたちに対しても、自分自身に対してもです。飾るわけでもなく、背伸びするわけでもなく、見栄を張るわけでもなく、正直に接すること。そうすれば、本当の気持ちが伝わるはず。自分の五感を研ぎ澄ませて、子どもたち一人ひとりと正直に接することが大切だと思います。

現場で奮闘する先生方への以下のようなメッセージもあった。

学校は子どもたちにとって、世の中に出ていくためにステップアップしていく場所です。先生や友達など周囲の環境が将来に大きく左右します。だから、先生も子どもたちも真正面から向き合っていて、正直に生きてぶつかり合うことがすごく大事だと思います。型にはめることなく、一人ひとりの生き方を尊重するとともに、先生方も自分らしい生き方を子どもたちに見せて、お互いにリスペクトし合いながら学校生活を送っていただけたらと思っています。

20代から30代前半と、30代後半から40代前半とを比べてみる。前者の方が、指導力も経験も足りないはずである。一方、後者の方が、少しは指導力がつき、それなりの経験もしてきたはずである。

にもかかわらず、前者の方が、生徒たちと正面からぶつかり合っていたような気がする。後者の方が、何か生徒たちとの距離があるというか、しっくりこないというか、こちらが距離をとっていたような気がするのである。

それは何なのか。そのときの状況や時代背景もあったとは思いますが、もしかしたら「正直」であったかどうかなのではないかと考えた。経験は積んでも、その分、正直ではなくなっていたのではないか。そうしようとしていたのではない。無意識のうちに、そうなってしまっていたように思う。自分の立場や役割がそうさせたのかもしれない。

上記の文章を読んで、そんなことを考えた。「先生方も自分らしい生き方を子どもたちに見せて」がポイントのように思える。教員にとって「正直」であるかどうかは、重要な要素である。